

【2月16日（金）】開講式・基調講演・発表会・文芸晚会

本学の学生も合流した16日には、[長島昭国際担当理事](#)をはじめ、[向山幸男みずほ国際交流奨学財団理事](#)、[箕島則和日本学生支援機構理事](#)、関係教職員等も出席し、林部国際交流委員長（教育人間科学部）の司会、教育人間科学部の馮良珍教授の通訳で開講式が行われました。

長島理事からは「日本の良いところも悪いところもよく見てください。そして、今回のセミナーをきっかけに、将来の密接な日中交流のもとを築いてくれることを期待します」との挨拶がありました。



引き続き行われた工学研究院岡村敏之助教授の基調講演「[都市開発と交通整備](#)」では、東京郊外の鉄道ネットワークは、1930年代にはその骨格がほぼ形成されていた事等、本学側参加者にとっても興味深い内容でした。公演後、中国の学生さん達から活発な質疑応答が続き、テーマへの関心の高さがうかがえました。



4) 開講式の様子、上左から、箕島理事、向山理事、長島理事、下左から、林部国際交流委員長、村田教授、馮教授



5) 基調講演を行う岡村助教授

6) 活気溢れる質疑応答が続きます

午後からは、3大学（横浜国立大学、北京師範大学、華東師範大学）の学生代表者が発表する全体会、引き続き、3つのグループに別れて参加者全員が発表する分科会が行われました。

村田教授の提案で、発表はいずれも母国語を用いて行われましたが、パワーポイントの資料は写真や図、表を多用して相手国の言葉（又は英語）で作成し、分かりやすい説明を心がけていたので、発表者の伝えたいことは、充分聴衆に伝わったようです。

代表発表では、

- ①「巨大イベント開催の新しい方向性-愛知万博を例に-」（横浜国立大学・押田丈治）
 - ②「北京の鉄道と公共交通の発展」（北京師範大学・関佳寧さん）、
 - ③「万博効果-上海都市発展に与える影響-」（華東師範大学・蔡永記さん）、
- が発表されました。

分科会では「北京の公共交通」や「上海世界博とテロ対策システム」、「（オリンピックや万博の）ボランティアについて」、「バリアフリー」や「日本のトイレ事情」等々興味深い発表が相次ぎ、どのグループも真剣な表情で発表に聞き入り、活発な質疑応答が行われました。



7) 上段、全体会での発表と、真剣に発表を聞く参加者

下段、分科会での発表

この日は、本学の学生も一緒に宿泊する合宿セミナーで、夜は和やかな雰囲気の中で、「文芸晚会」と銘打ち、各々の大学から伝統的な遊びや、歌、踊り等が紹介されました。特に全員一緒になって行った「だるまさんがころんだ」や卵からヒヨコ、ゴリラ、そして人間に成長していく「ジャンケンゲーム」では笑い声が響き、一気にうち解けた様子でした。



8) プレイホールには笑い声ははじけ、拍手が鳴り響きました。